

1. 活動報告（事務局 記）

8月26日（土）第三土曜日 19日台風で出来なかった活動の実施報告します。

- 1) そば播種 全畝2列に播種しました。近々花見が 出来ます。
- 2) 案山子の製作2体作り、取り付けました。 名前は稲の品種より 宮玉甚兵衛さんと、宮玉マリア（外国人）夫婦。 その他小学校一年生の作品 一体取り付け。
- 3) 稲田の猪よけの網貼り付けをしました。

会員16名と観察隊4名、保護者会員3名合計23名でした。暑い中お疲れ様でした。

9月3日（日）

- 1) 蕎麦田の草取り、26日に播種した蕎麦も出揃いましたが 雑草もたくさん出揃いました蕎麦を引き抜かないように、丁寧に 草取りをしました。
- 2) 湿地帯、池の中のエコアップ(スゲ刈取、がま引き抜き、イグサ 引き抜き)等を行ないました。
- 3) 草原の草刈、散策道の草刈を行ないました。

18名と沢山の参加を得ましたが、草が伸びるのが早かったり、雨のため雑草が芽吹くのも早く、もっと会員の手が欲しく思います。 参加された方は暑い中大変ご苦労をお掛けしました。

9月16日（土）

- 1) 湿地帯4箇所の植生調査
- 2) 市道からビオトープ入口の坂道の整備（泥持ち、芝植え）
- 3) 草刈(水車水路、須賀河内川側の土手、湿地帯スゲ)

9月16日（土）

里山自然観察隊 鳴く昆虫の捕獲と観察。 午後のはじめ雨が強かったため9名の隊員キャンセル連絡ありも、5名の隊員と2名の保護者、指導者9名にてたくさんの鳴く昆虫を捕獲し市民センターにて勉強会をしました。

2. 今後の予定（事務局 記）

見学者

9月10日 ネイチャークラブが毎月ビオトープで散策活動をされました。岡田さんよりビオトープ使用の連絡がありました。来月も活動されます。

10月5日 見初小学校 斉藤先生ほか1年生 29名の見学 今井会長、田村副会長、原田マで案内します。JA からビオトープまで交通見張りをしながら案内します。

11月25日 厚東川、厚狭川、有帆川協議会行事体験学習会があります。案内役を3名必要としています。

行事

10月1日（第一日曜日）の活動（従来の活動）

10月21日（第三土曜日）の活動（稲刈り）

9月16日の協議で機械を使つての簡素に脱穀、乾燥の話も出ましたが、従来どおり手刈り、はぜ掛けをする事になりました。経験したい方をお誘い合わせうえ参加ください。

なおこのときは「やまぐち県民活動きらめき財団」から見学に来られると思います。

午後は里山自然観察隊の第7回目の観察活動（森の探検）

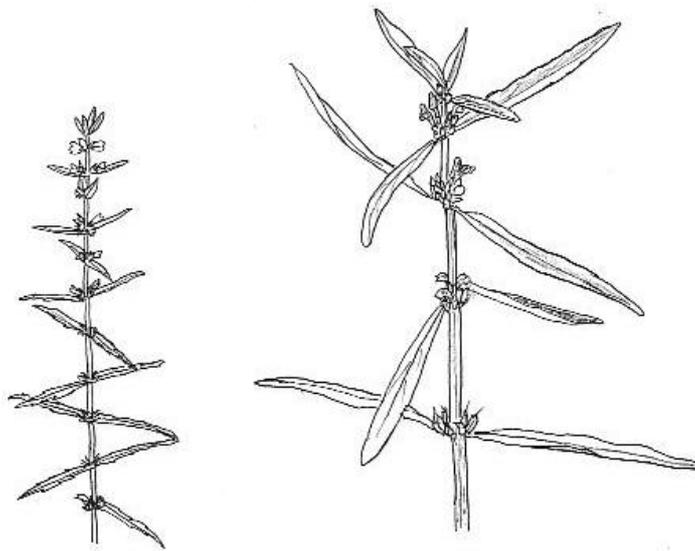
3、ピオトープ関連（ピオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

ヒメシロネとオギノツメ

今ごろの季節、湿地では十字対生の葉を持った2つの植物が花を付けています。調べたところ一つは冷温帯を分布の中心としている植物、もう一つは亜熱帯を分布の中心としている植物でした。この2種を同時にピオトープで見ることができるのは幸運といってよいでしょう。

一つはヒメシロネというシソ科の植物です。高さ20～30cm、湿地では中の島のミズゴケがある場所に群生しています。葉は細く先の尖ったかたちで、十字に対生します。葉の付け根に白色の唇状花をたくさん付けます。「シロネ」とは、地下茎が太く真っ白なことによりますが、同じシソ科シロネ属にやや大ぶりのシロネという植物があり、葉も細く草丈もやや低い本種をヒメシロネというわけです。ヒメシロネは北海道から九州に分布しますが、尾瀬や奥日光の湿原でも普通にあるところを見ると、どちらかという分布の中心は北のほうにあるような感じがします。背丈も60～70cmと高く、葉も幅広く、ピオトープで見える小さいヒメシロネとはとても同種とは見えません。北へ行くほど背丈が高くなるという生物法則がこのヒメシロネにも当てはまるのでしょうか。

オギノツメも葉が十字対生ですが、背丈がヒメシロネに比べて高く、40～50cmくらいになります。同じように葉の付け根に唇状花を付けますが、花の色は薄桃色をしています。この植物はシソ科ではなく、今草原で多く咲いているキツネノマゴと同じ科です。キツネノマゴとの共通点は一見ないように見えますが、強いて上げるならばガクに毛があって、同じようなピンク色の唇状花を付けることでしょうか。オギノツメは静岡以西、台湾まで分布する暖帯～熱帯の多年草です。ピオトープでは湿地内や溜め池の淵に普通に群生していますが、山口県レッドデータブックでは絶滅危惧 類に指定されています。どこにでもある植物ではないことは、この植物が載っていない図鑑があることからわかります。私もピオトープで初めて見ました。蝶マニアにとっては、南西諸島から南九州に分布するタテハモドキという大形のタテハチョウの食草であることからけっこう有名なのですが、その他のことはインターネットでもほとんど情報が得られないというある意味では珍しい植物です。



ヒメシロネ（シソ科）

オギノツメ（キツネノマゴ科）

4. ピオトープ関連 (会員の声) (藤村 武昭 記)

雑感

リレー随筆の周りがなんたって早い。編集責任者も原稿をどうするか締め切りが近づくとも頭痛が痛くなると思われ。会報発行数を少し減らし、その分月2回の活動日の内、1時間を皆で話し合う場(学習でも可)を設ければ発行回数が減っても充分補う事が出来ると思います。

話し合う事で会員同志の意思疎通もうまくと思いますが、そのためには活動毎への積極的な参加が必要です。

8月11日「水辺の教室」でピオトープ内での野外学習がありました。子ども達と一緒に川の中を探索しました。久しぶりの川遊び、子どもより私のほうが胸が高鳴りました。子ども達も時にはへそ位の水の中を網を持って歩き、急瀬を登り多いに楽しんでいました。今度は須賀河内川の中も、整備して見ますか? 生物が棲み易い様に。

ピオトープの周辺には数種のラン科植物が自生していますが、中でもピオトープに植栽されているサギ草は増殖している場所と、絶滅している場所が有るようです。増殖している場所を観察しながら、そのような環境を整えてやり増殖してみようではありませんか。

次回 会員 中村恭子さん東京在住(時)の話などお願いします。

5. 里山自然観察隊(9月16日、隊員5名、保護者2名、会員9名)

秋の鳴く虫(昆虫観察)

(1) チョウ

(シロチョウ科) キチョウ、モンシロチョウ

(タテハチョウ科) ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、キタテハ、コムスジ、ヒメウラナミジヤノメ

(セセリチョウ科) イチモンジセセリ、キマダラセセリ、チャバネセセリ

(アゲハチョウ科) モンキアゲハ、アゲハチョウ、カラスアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ

(シジミチョウ科) ヤマトシジミ、ベニシジミ、ルリシジミ、ウラギンシジミ

(2) バッタ・コオロギ

(バッタ科) ショウリョウバッタ、ハネナガイナゴ、ツチイナゴ、ナキイナゴ、オンブバッタ、クルマバッタ

(キリギリス科) キリギリス、クビキリギリス、ウスイロササキリ

(コオロギ科) エンマコオロギ、ツヅレサセコオロギ、マダラスズ

(3) トンボ

(オニヤンマ科) オニヤンマ

(トンボ科) シオカラトンボ、ウスバキトンボ、マユタテアカネ、マイコアカネ、コフキトンボ

(イトトンボ科) クロイトトンボ、ベニイトトンボ、オオイトトンボ

(カワトンボ科) ハグロトンボ

(4) カマキリ

(カマキリ科) オオカマキリ、コカマキリ

(西原 一誠 記)

6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

今月はありませんでした。8月の記載漏れがありましたので今月号で追記します。

8月21日

前から一度来ようと思っていたのですが道が分からなくて、今日はようやく来ることが出来ました。本当に昔の田舎の自然を見る事が出来、懐かしく思いました。自然を眺めながら弁当を食べました。二倍も三倍も美味しく食べる事が出来ました。地元、会員の皆様のご苦勞がありがたいです。

8月25日

前から気にかかっていたのですが、今日はじめて来ました。もう少し涼しくなったら すばらしい所なので何度も来たいと思います。「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」の皆様頑張ってください。

山陽小野田市(二名)

7. 会よりの連絡事項

秋の活動は稲刈り、稲こぎ、蕎麦収穫など天気により日程が変更される事があります。また二俣瀬校区の行事とも重なる事も多くあります。その都度連絡をしますが、紛らわしいときは何方かに問い合わせください。現在変更が決まっているのは

11月5日(第一日曜日)は宇部まつりのため11月12日(第二日曜日)に変更

11月18日(第三土曜日)は地域の文化祭のため11月25日(第四土曜日) 午後「里山自然観察隊」も講堂が使えず変更です。

12月3日(第一日曜日)は二俣瀬昭和会の年末行事のため12月2日(第一土曜日)この日は収穫祭餅つきで毎年同様変更しています。12月1日はもち米水洗ほか準備もあります。

その他 稲の熟れ具合で10月21日(第三土曜日)予定の稲刈りは10月14日(第二土曜日)となる事が濃厚です。

8. 編集後記

「里山自然観察隊」も今年で4年目を迎えて、何か違ったものをやろうということで、8月の行事は川の探検であったが、夜の水棲動物観察と朝の森に行って昆虫観察をしようと、キャンプを計画し、皆さん多いに張りきっていたが、台風のため全てダメで中止となった。9月の観察は秋の鳴く虫であったが、これも台風のため多くの参加者が事前に欠席を連絡してこられた。今年は雨も多く降り、また台風も多く来た。これも地球温暖化の影響だろうか。折角の計画も天候次第で中止となり、準備していただいた多くの人にも申し訳ないし、準備したのも無駄になったりもした。日を改めてやればと言われるが、年間計画であり、それぞれが計画を持たれているので、簡単にはいかない。自然には逆らえないということが分るのも、自然観察かも知れないと一人言い訳をしている自分がいます。

(西原 一誠 記)